

# 寿楽院寺報

〒369-1245 大里郡花園町荒川983

高野山真言宗 荒巖 寿楽院

住職 高橋 敬行

電話 048-584-0302

## 一口法話

月を見る人によって、月は異なる。  
目は正しく（仏様の目で）ものを見る  
そのようにあるべきか！



上記の研修会に出席し、帰りに奥日光を見学した寿楽院参与の皆さんです。

（心のふれあいを持つ）

、私達は、良きにつけ悪しきにつけ、故人の生き様から有形無形のなにがしかを学ばなければならぬと思っております。それが、故人の命を、意志を生かし、その命の分まで生きることには他ならないと思っております。これが第二の重要な供養なのです。  
（故人から学ぶ）  
、身近にいた人でさえも人間はお互いに、全てを理解することは難しい、逆に理解し得ない未知の世界の方が遙かに大きいのです。自分の我見で人を判断せず、その時その時の出会いを一期一会と心得て、心のふれあいを持つよう心がけるべきであると思っております。そして周囲の人の心をほのぼのと暖めるよう努めることが大切なのだと思えます。これが第三の反省であり供養なのです。

## 供養とは！

、私達は、身近な人の死を通して、かけがえのない命の尊さに目覚め、今日一日を自分の命を大切に感謝のある生活にせねばならないと思っております。これが遺族が勤めるべき一番最初の供養なのです。  
（感謝のある生活）

## 朝の十分間が一日の成果を

「色は匂えど散りぬるを（諸行無常）  
我が世誰ぞ常ならむ（是生滅法）  
有為の奥山今日越えて（生滅滅已）  
浅き夢見じ酔いもせず（寂滅為楽）」  
有為！移り変わりの極まりのない世、それを山に譬えて有為の奥山と申す。  
花びらの色はきれいだ、いつかは散って落ちる定めにある。  
我々とてもいつまでも生き続けられるものであるが、  
現象世界を今日乗り越えて  
空の世界に至れば、最早はかない夢をみることもなく酔うこともないので、あるがままの姿をシカと見つめることが出来るよ。

## いろは歌の意味

「一芸は秀でた者は必ず用いられるが、五台の車に乗せられないほどの本を書いても、正しい道理に基づいたことを学んでいない者は、なんの役にも立たない」  
（空海のことばより）

## 空海の言葉 シリーズ

むかしから「芸は身を助ける」といいます。

芸といっても、歌や踊りばかりが芸ではありません。仏教のほうでは、語学も数学も物理学も天文学も文学も音楽も、あらゆる学問が芸のうちなのです。「あの人は芸達者だ」といわれても、仏教では、かくし芸が上手なことではなく、「あの人は優れた学者だ」ということです。

小説家でもないのに、何百冊の本を書いたと威張っている人もいますが、そういう人は弘法さんがいわれるように、「五台の車に乗せられないほどの本（おそらく何千冊でしょう）を書いて、なんの役にも立たない本（物の道理から外れている本）」かどうかを考えてみる必要があります。

誰もが「なるほど」と納得できることが「道理」というものです。

本を書くばかりが学者じゃありません。

弘法さんは、「人はなにか一つ芸をもて」といわれます。ただし、その芸が世のため、人のためになるような芸であれば、なんでもいいのです。

どうやって芸を身につけるかって？ 簡単なことです。どんなことでも、一つのことを十年続ければいいのです。いま七十歳の人でも、きょうからやれば八十歳で一芸が身につきます。さあ！ いますぐに始めましょう。

